

ファンド仲間の皆さまへ

この度は7月1日に突然の人事発表となり、大変驚かれたことかと思えます。ご心配をおかけして大変申し訳ありません。今の私はただ前を向いて進むだけです。まずは、私が不祥事や会社に損害を与えたといったようなことでの解任ではないことをご理解ください。創業者の決断であり、私がさらに成長するための機会をいただいたのです。

今まで本当にありがとうございました。皆さまにお伝えるのはただ感謝しかございません。リーマンショックの2008年に入社し、2010年よりファンドマネージャー、2013年からは最高投資責任者、2015年からは取締役として経営にも参画させていただきました。

最も印象的なこととして鮮明な映像として記憶しているのはファンドマネージャーに就任してすぐに発生した東日本大震災です。社員には退避してもらい、揺れが続くオフィスの中でトレーディング画面を食いつくように見ていたら、いつの間にか創業者と二人きりになってしまっていたことです。真のリスクテイカーと空間を共にできたことは光栄でしたし、あの時の光景は今も頭を離れません。その後は原発のニュースのたびに市場は大きく変動しましたが、ファンド仲間の皆さまからの「日本のために」という声に支えられ、ブレずに運用を続けることができました。

2013年以降はアベノミクスの影響もあり、市場が急激に回復したことに加え税制変更の影響で巨額の資金流出となってしまいました。個人的に、資金流出は本当に苦しいものでした。しんがりを務めつつ新たな領

地を求めるような状況だからです。貯金を取り崩しながら残った分だけで資産を大きくするといったイメージでしょうか。流出が続いた2021年までの間に米国・欧州中央銀行の大規模な金融緩和、日銀の異次元緩和やマイナス金利など、これまでの経済学の常識を超えた事態が起きました。その状況の中、1800億円をファンド仲間に返しつつ、2000億円のファンドを3000億円を超える規模までに成長できたことは大きな財産です。ファンド仲間の皆さまへのせめてもの恩返しとなっていれば幸いです。

この度の人事について、様々な方が多様な意見を持たれることと思います。私自身も驚きもがいております。ですが、これは大きな歴史の流れの中で起きた小さな出来事なので、どうか温かく見守ってください。後任の黒島、ファンドマネージャーの坂本が私のことなど忘れてしまう活躍を見せると信じています。社員の皆もファンド仲間のために全力を尽くしております。

最後に、重ねてファンド仲間の皆さまにお礼を申し上げます。感謝会、20周年記念感謝祭、運用報告会などで、皆さまからいただいた信頼と期待の眼差しは一生忘れることはできません。私は全くのゼロから始まります。また、皆さまにお目にかかる際には新たなステージに進んでいるよう尽力して参ります。14年間、皆さまに支えられて必死に駆け抜けてまいりました。心から感謝申し上げます。またお会いする日まで。

7月4日記
草刈 貴弘